

株式会社南安精工

■平成24年度テーマ

超小型・高性能コンプレッサー（マイクロポンプ）の開発及び実用化

■平成24年度概要

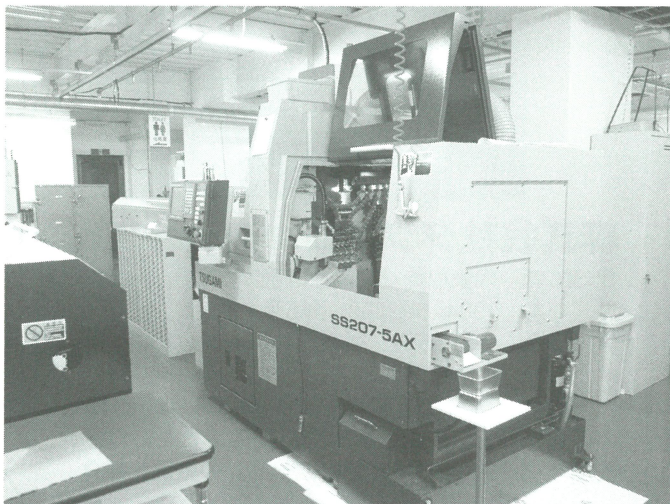
民生機器や産業機器に搭載される圧縮機器の超小型化と高性能化が課題となっている。これらを解決するため、微細・高精度切削加工技術と最新の部材を用いシンプル構造の超小型、高性能圧縮機を開発する。この製品で汎用機器から医療機器産業への市場拡大を目指す。

■平成24年度分類

- ＜事業類型＞ 試作開発のみ
- ＜競争力強化の形態＞ ニッチ分野特化型
- ＜22分野技術＞ 切削加工

■事業の概要と成果

高性能マイクロポンプの開発及び製作をした。今後、開発したマイクロポンプのオリジナル商品への搭載活用や、そのオリジナル商品を利用した宣伝広告による営業販売を検討している。産業機器や民生機器へのマイクロポンプの搭載も計画している。



■平成25年度テーマ

精密加工部品の製作リードタイム短縮と複雑形状対応の実現

■平成25年度概要

微細高精度部品加工において切削加工技術だけでは製作リードタイム短縮と複雑形状対応に大きな課題がある。この課題に対しワイヤー放電加工技術を導入し、弊社の精密切削加工との複合加工システムを構築する。それによりリードタイム30%削減と受注対応力50% Upを目指す。

■平成25年度分類

- ＜対象類型＞ 【ものづくり技術】
精密加工
- ＜事業類型＞ 一般型
設備投資のみ

■事業の概要と成果

(1) 事業概要

- ①ファナック社製ワイヤー放電加工機細線仕様の導入
- ②ワイヤー放電加工機の取扱教育
- ③開発試作品・設備部品の製作

(2) 成果

- ①製作リードタイムの削減（30%以上）
- ②微細・複雑部品の製造が可能となった。（医療系部品製造への進出の足がかりとなる。）
- ③製造コストの削減及び部品内製化に伴う、事業採算性向上。



好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

株式会社南安精工（安曇野市）

時計で培った微細・超精密加工技術を活かし、
超精密部品、省力化機械、治具、そして再び時計へ。

より精度の高い治具の提供を目指して

南安精工は昭和42（1967）年、精密機械、光学機器の組立および部品加工で創業。その後、大型自動組立ラインを導入し、ウオッチの量産を手がけます。

「しかし、なかなか儲からない。そこで省力化機械装置そのものが作れるようにならないとだめだと装置の開発・製造事業に着手。その製品を親会社に販売する一方、その機械装置を使って部品加工を行うようになりました」。3代目となる小林知之社長が入社後、平成13（2001）年のことです。

時計の極小・超精密な製品の加工には高精度な治具が必要です。スピード感が求められる受注体制の中、専門メーカーに発注するもなかなか思う通りにはいかず思案した結果、「治具も自分たちで作ろう」。時計の他、各分野の省力化機械向けに、他社ではなかなか手がけられない微細な治具の加工を手がけています。

そのために導入したのがワイヤー放電加工機（ものづくり補助金採択）。通常0.25ミリの線を使用するところ、0.05ミリまでの加工が可能な特別仕様で、旋盤、マシニングセンターによる加工とうまく組み合わせ、精度向上と時間短縮を実現しています。

同社ではさらに「超小型・高性能コンプレッサー（マイクロポンプ）の開発及び実用化」に取り組み（ものづくり補助金採択）、医療分野の治具製造を目指しています。「ダンパーに油を入れるなど自動車業界にも使えるのではないかと小林社長は話し、より精度の高い治具の提供で産業界の期待に応えていきたいと考えています。

時計技術の承継から新たな展開へ

一方、時計組立の技術と設備を活かし、時計の組立・修理などを行う「時計屋復刻堂」を04年にスタートしました。「技術承継のため」と手がけたオリジナルの機械式時計は人気で、ほぼ完売。



ワイヤー放電加工機による加工

「メイド・イン・ジャパン」にこだわり、自社ブランド製品を製造・販売する他、独自ブランドで展開するメーカーにもOEM供給しています。そ

んな事業展開が注目され、生産の日本回帰を志向するメーカー数社からオファーが来ているとか。

「最近の円安で、海外から日本生産に戻したいという仕事結構あり、比較的安価な時計を量産する自動組立装置を導入する計画です（ものづくり補助金申請中）。この地域には時計産業の土壌があり、細かい部品も調達しやすいという強みも活かしたい」

超精密部品および治具、省力化機械、そして時計。同社が手がける製品分野はほとんどが小さく精密なもの。小林社長は「小さいもの」にこだわる理由を「輸送コストが少ない」ことを挙げます。「国内である程度量をつくり動かしていくためには、小さいものでないとコストで競争になりません」。



時計屋復刻堂（店内）

同社では今後も「小さく精密なもの」にこだわった事業展開を目指しています。



株式会社南安精工

代表者 代表取締役社長 小林知之
創業 1967（昭和42）年10月
資本金 1,000万円 従業員数 30人
本社 安曇野市豊科2300-1

TEL.0263-72-2400 FAX.0263-73-0670

事業内容 超精密機械部品・治具の加工・製造・組立、
合理化自動機械・省力化機械の開発・製造、
時計の製造・修理・販売

